

守山企業景況調査報告書

(第55回)

令和5年4月～令和5年6月期 実績

令和5年7月～令和5年9月期 見通し

守山企業景況調査について

(令和5年4月～令和5年6月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 68 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	18	14	77.8%
製造業	13	9	69.2%
建設業	12	9	75.0%
サービス業	19	16	84.2%
卸売業	5	4	80.0%
合計	67	52	77.6%

3. 調査期間

調査期間は、実績を令和5年4月～令和5年6月、見通しを令和5年7月～令和5年9月とし、調査時点は令和5年7月31日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標としてDI指数を採用した。DI指数とはDIffusion Index（景気動向指数）の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算（経常利益）」、「従業員」のDI指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」のDI指数は3カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算（経常利益）の水準」のDI指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

令和5年4月～令和5年6月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数（景気動向指数）を用いて示している。

DIは、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DIが±0の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆にDIがマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

令和5年4月～6月期の調査結果では、売上高、業況、採算、資金繰りの4指標の全ての数値が低下した。

<業況>

業況DIは▲17.6で前回調査の▲2.3から15.3ポイント低下した。業種別では、小売業▲21.4（前回調査比+5.9）、製造業▲22.2（前回調査比▲12.2）、建設業▲22.2（前回調査比▲42.2）、サービス業▲13.3（前回調査比▲13.3）、卸売業0.0（前回調査比▲33.3）と小売業が上昇し、その他の業種は低下した。7月～9月期見通しは全体で▲14.0である。

<売上高>

売上高DIは▲7.7で前回調査の17.8から25.5ポイント低下した。業種別では、小売業0.0（前回調査比▲9.1）、製造業▲22.2（前回調査比▲22.2）、建設業▲33.3（前回調査比▲83.3）、サービス業0.0（前回調査比▲9.1）、卸売業25.0（前回調査比▲8.3）であり、全ての業種で低下した。

7月～9月期見通しは全体で1.9である。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DIは▲25.0で前回調査の▲13.3から11.7ポイント低下した。業種別では、小売業▲35.7（前回調査比▲8.4）、製造業▲22.2（前回調査比▲2.2）、建設業▲33.3（前回調査比▲43.3）、サービス業▲25.0（前回調査比+2.3）、卸売業25.0（前回調査比▲8.3）でサービス業は上昇したものの、それ以外の業種は低下となった。

7月～9月期見通しは全体で▲25.5である。

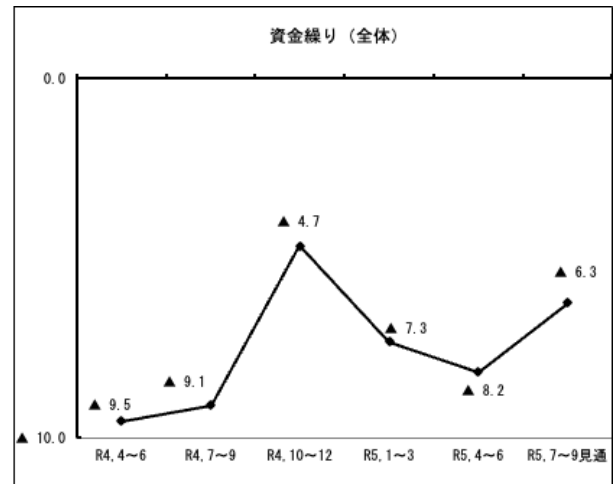
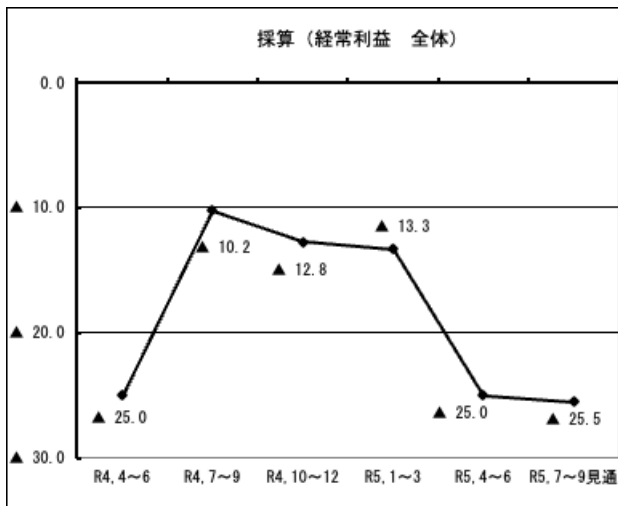
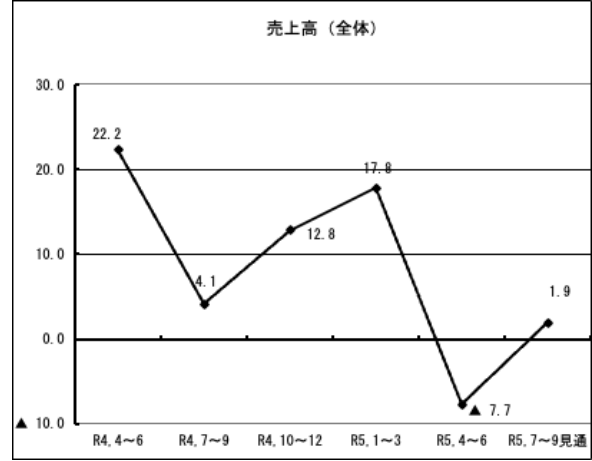
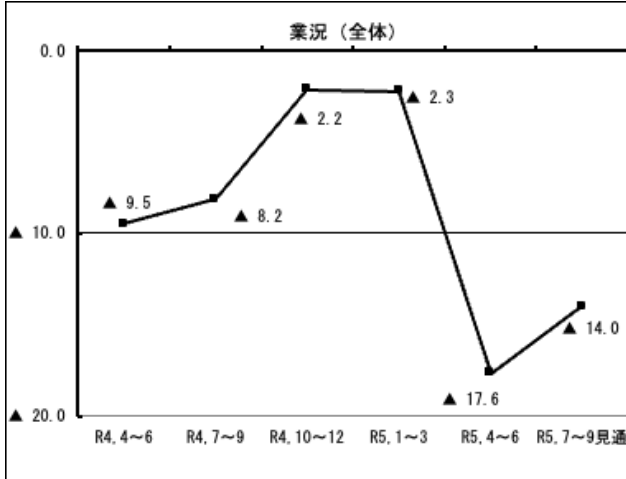
<資金繰り>

資金繰りDIは▲8.2で前回調査の▲7.3から0.9ポイント低下した。業種別では小売業▲7.1（前回調査比+2.9）、製造業▲12.5（前回調査比▲12.5）、建設業▲33.3（前回調査比▲22.2）、サービス業0.0（前回調査比+20.0）、卸売業25.0（前回調査比▲8.3）で小売業、サービス業が上昇した。

7月～9月期見通しは全体で▲6.3である。

<コロナウイルス、物価高騰の影響などの意見>

- ・ 原材料、燃料、包装資材等全てのコストが上がっているが、どこまで価格転嫁して良いものか決めかねている。



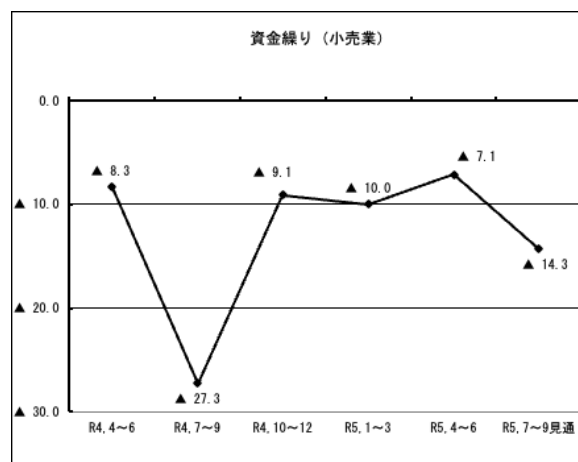
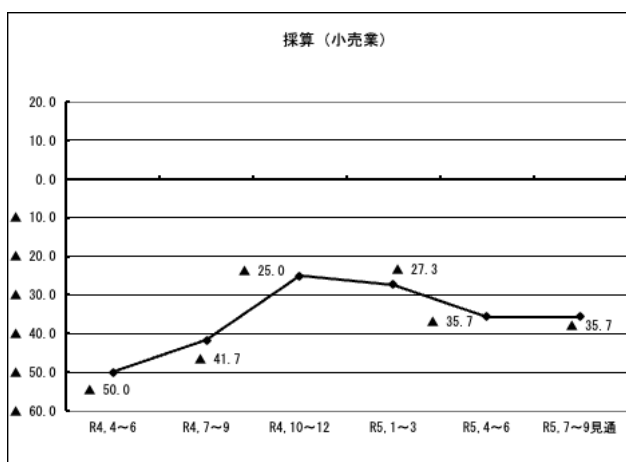
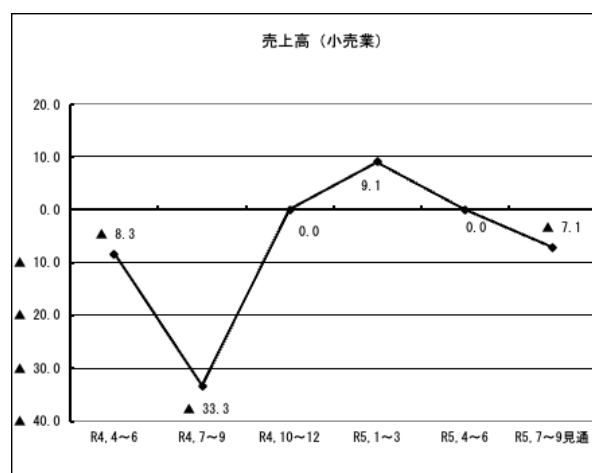
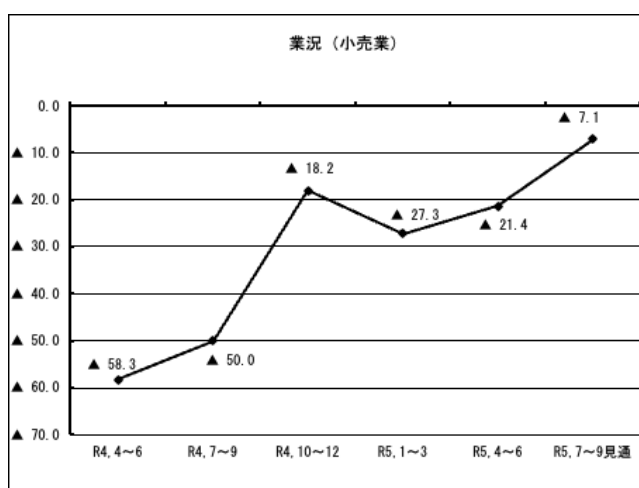
小売業

小売業の業況DIは▲21.4で前回調査に比べて5.9ポイント上昇した。令和4年4月～6月期の▲58.3を底に回復基調の中にあるように見える。令和4年4月～9月の2四半期が非常に悪い結果であったのでその期間を特異と見ることができる。7月～9月期見通しでも▲7.1なのでさらに回復しそうである。

売上高DIは0.0で前回調査に比べて9.1ポイントの低下であった。前回、前々回と2四半期にわたって数値が上昇したが今回は低下となった。7月～9月期見通しは▲7.1と今回よりさらに低下の予想になっており業況とは逆の動きが予想されている。

採算DIは▲35.7で前回調査より8.4ポイント低下した。令和4年4月～6月期の▲50.0を底に回復はしてきているものの、ここ2四半期連続の低下なので注意が必要である。7月～9月期見通しも▲35.7なので採算はよくなる気配ではない。

資金繰りDIは▲7.1で前回調査より2.9ポイント上昇した。令和4年7月～9月期の▲27.3を底に回復はしていると見ることができる。しかし、7月～9月期見通しは▲14.3なので楽観はできないようである。



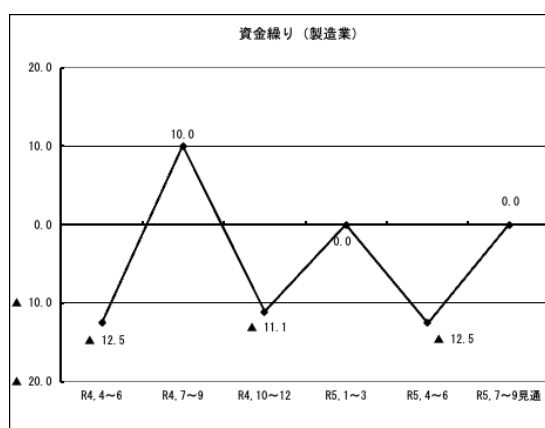
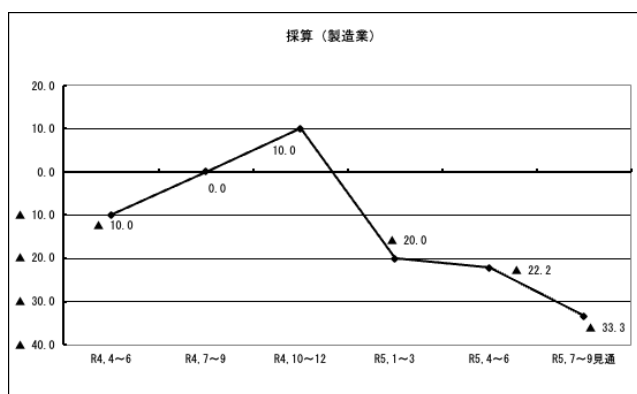
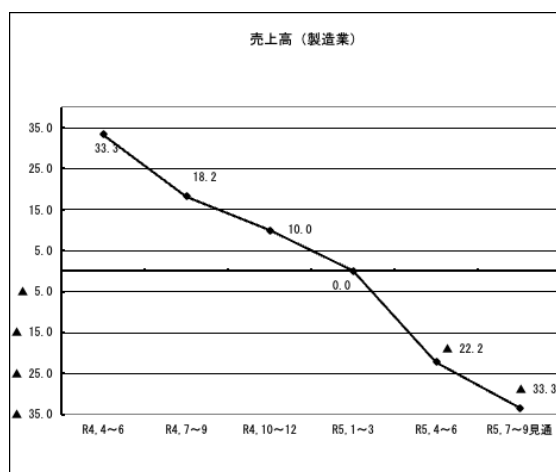
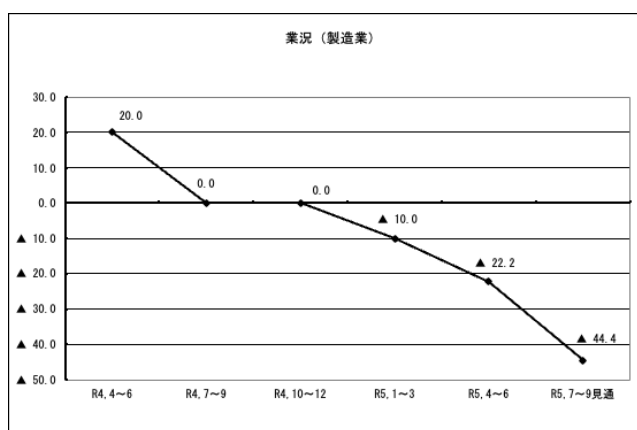
製造業

製造業の業況DIは▲22.2と前回調査の▲10.0から12.2ポイント低下した。令和4年4月～6月期が20.0でその後低下傾向は変わらず、今回調査では▲22.2まで落ちた。さらに、7月～9月期見通しでは▲44.4となっており、製造業の業況は回復の兆しが見えない。

売上高DIは▲22.2で前回調査と比べて22.2ポイント低下した。業況と同じく令和4年4月～6月期が33.3でその後4四半期連続で低下しており全く回復の兆しが見えない。7月～9月期見通しも▲33.3でこの傾向は変わらないようである。

採算DIは▲22.2で前回調査に比べて2.2ポイント低下した。前回調査で30ポイント低下したまま今回調査も回復せずというところである。7月～9月期見通しも▲33.3なので採算も回復しそうに見えない。

資金繰りDIは▲12.5で前回調査に比べて12.5ポイント低下した。令和4年から前回調査までは上下運動のような結果で今回はその続きで低下の順になっており、調査結果もそのようになった。7月～9月期見通しは0.0と上下運動の順の通りが予想されている。



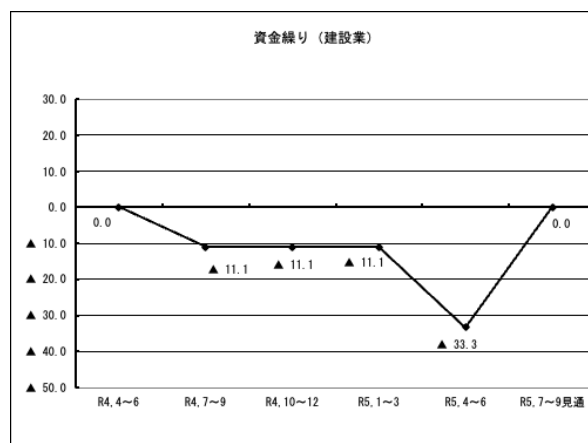
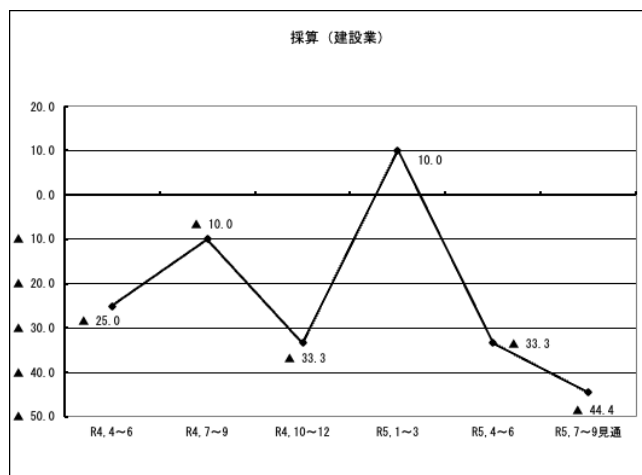
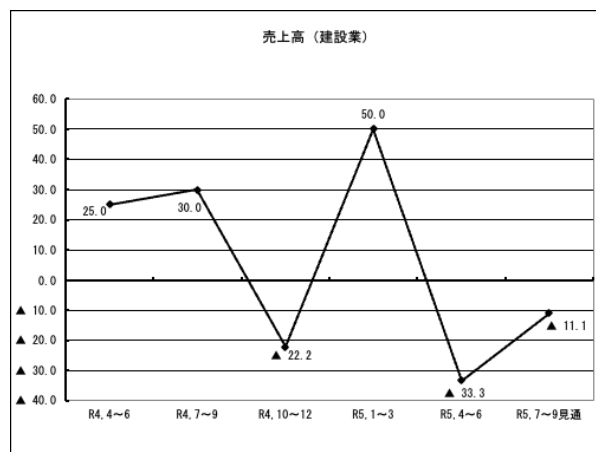
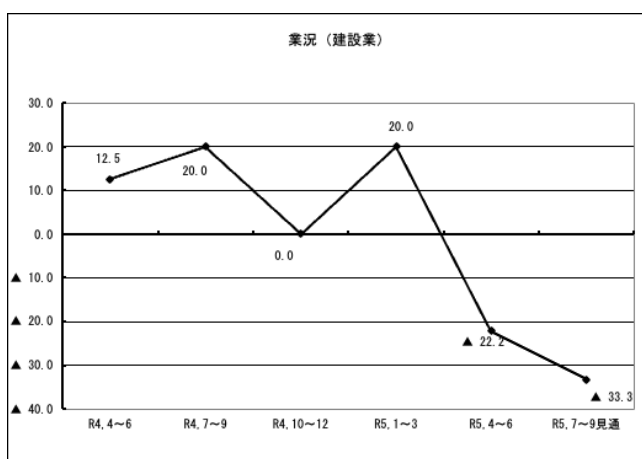
建設業

建設業の業況DIは▲22.2であり前回調査から42.2ポイント低下した。前回調査の際の4月～6月期見通しが▲25.0で今回調査はその見通しに近い結果となった。前回調査までの4四半期はプラスの数値であったが今回はマイナスであり、7月～9月期見通しも▲33.3であることを見ると業況が悪くなって行く方向に向かうようである。

売上高DIは▲33.3で前回調査より83.3ポイント低下した。前回調査では大きく数値が上昇したが今回調査では一転して大幅な低下となった。今回調査では売上高が良いとする回答が22%であり、建設業の売上高がかなり落ち込んでいることがわかる。7月～9月期見通しは▲11.1で少し持ち直している。

採算DIは▲33.3で前回調査より43.3ポイント低下した。前回調査で上昇した分だけ今回調査で低下している。採算面では過去1年を見ても前回調査以外はマイナスの数値なので建設業の採算は良くなっていないと考えられる。7月～9月期見通しも▲44.4とさらに低下の予想なので採算は苦しいと見ることができそうである。

資金繰りDIは▲33.3で前回調査に比べて22.2ポイント低下した。前回調査まで▲11.1が3四半期連続で続いていたので比較的安定した動きであったが、今回調査では一気に20ポイント以上下った。7月～9月期見通しは0.0と数値が上昇しているため、資金繰りは安定に向う見込みである。



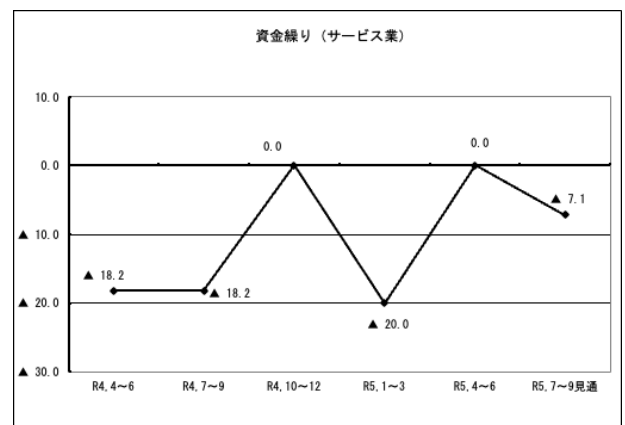
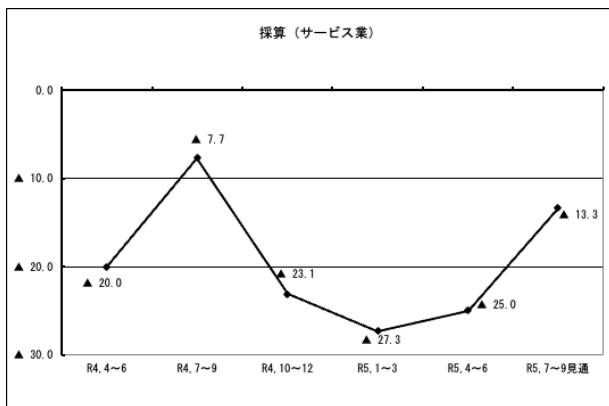
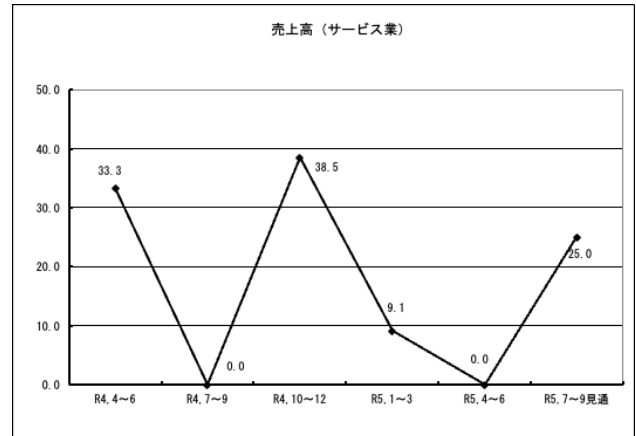
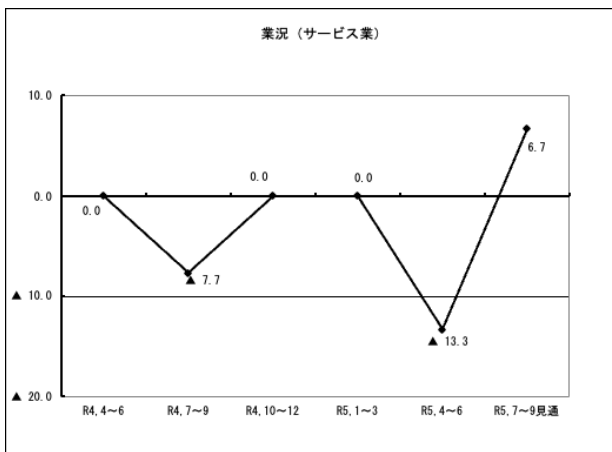
サービス業

サービス業の業況DIは▲13.3で前回調査に比べて13.3ポイント低下した。前回調査時点では4月～6月期見通しが▲40.0であったのでそれに比べると高い数値であり、当時の見通しよりもサービス業の業況は悪化しなかったともとれる。7月～9月期見通しは6.7とプラス予想であるので、業況は良くなって行くと考えられているようである。

売上高DIは0.0で前回調査より9.1ポイント低下した。令和4年10月～12月期の38.5を山に2四半期連続での低下である。しかし、7月～9月期見通しは25.0と回復を予想しており、サービス業の売上高は今回調査時点が底であると考えられている。

採算DIは▲25.0で前回調査に比べて2.3ポイント上昇した。前回調査時点での4月～6月期見通しは▲45.5であったので、これも当時の予想を上回る数値であったが、いかにせんマイナスの数値であり、採算が良くなっているとは考えにくい。しかし、7月～9月期見通しは▲13.3でさらに数値を上げており採算も回復の基調のようである。

資金繰りDIは0.0で前回調査より20ポイント上昇した。前回調査で低下した20.0ポイント戻したことで安定的な資金繰りになっていると考えられる。7月～9月期見通しは▲7.7なので大きな資金繰り不安にはならないようである。



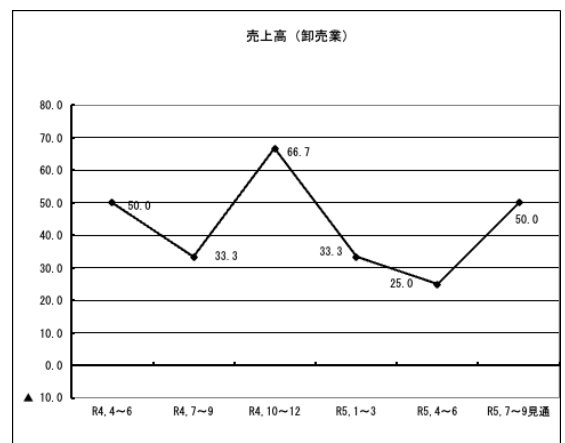
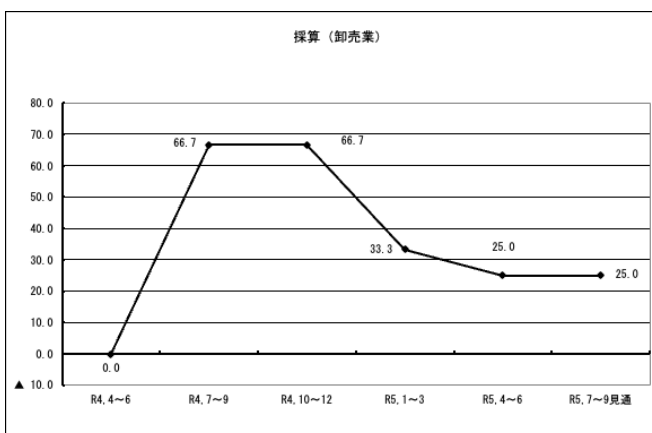
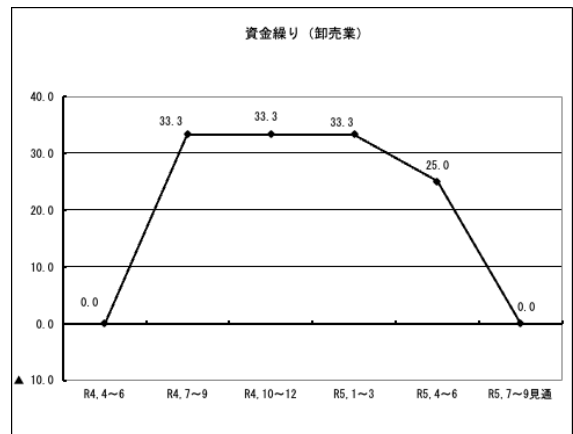
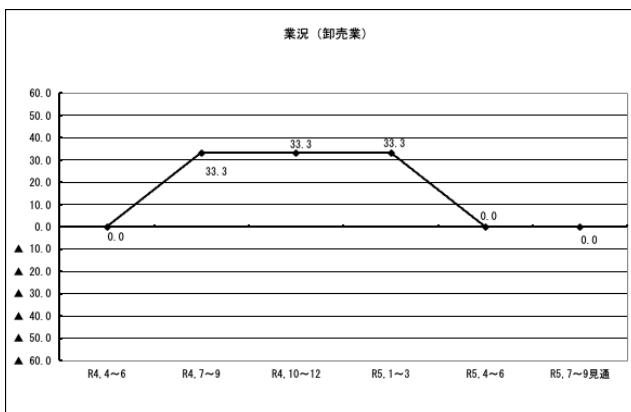
卸売業

卸売業の業況DIは0.0で前回調査と比べて33.3ポイント低下した。前回調査まで3四半期連続で33.3であったが今回は令和4年4月～6月期以来の0.0である。とは言え、まだマイナスの数値にはなっておらず業況が悪化したとまでは言い切れない。7月～9月期見通しも0.0でこの調子が続くかのようである。

売上高DIは25.0で前回調査より8.3ポイント低下した。卸売業の売上高DIは非常に堅調な数値が続いているので25.0でも低位に見えるが他の業種と比較するとかなり高い値である。7月～9月期見通しは50.0とさらに高い数値予想になっており、好調がキープされるようである。

採算DIは25.0で前回調査より8.3ポイント低下した。令和4年10月～12月期の66.7からなだらかに採算DIは下っているがプラスの数値であるので、採算が悪化しているとは言えない。7月～9月期見通しも25.0であり、採算でも好調が続くものと予想されている。

DI資金繰りDIは25.0で前回調査より8.3ポイント低下した。前回調査まで33.3が3四半期続いたが今回は少し数値が下った。売上高、採算と同じような動きをしており悪くなったとまでは言えない結果である。7月～9月期見通しは0.0でさらに下る予想である。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	4～6 月期動向	7～9 月期見通し	4～6 月期動向	7～9 月期見通し	4～6 月期動向	7～9 月期見通し
全体	▲ 17.6	▲ 14.0	▲ 7.7	1.9	▲ 25.0	▲ 25.5
小売業	▲ 21.4	▲ 7.1	0.0	▲ 7.1	▲ 35.7	▲ 35.7
製造業	▲ 22.2	▲ 44.4	▲ 22.2	▲ 33.3	▲ 22.2	▲ 33.3
建設業	▲ 22.2	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 11.1	▲ 33.3	▲ 44.4
サービス業	▲ 13.3	6.7	0.0	25.0	▲ 25.0	▲ 13.3
卸売業	0.0	0.0	25.0	50.0	25.0	25.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	4～6 月期動向	7～9 月期見通し	4～6 月期動向	7～9 月期見通し	4～6 月期動向	7～9 月期見通し
全体	13.7	5.8	▲ 24.5	▲ 27.5	▲ 4.0	▲ 6.0
小売業	▲ 7.1	▲ 14.3	▲ 8.3	▲ 15.4	▲ 8.3	▲ 8.3
製造業	33.3	11.1	▲ 44.4	0.0	▲ 22.2	▲ 22.2
建設業	22.2	11.1	▲ 33.3	▲ 22.2	11.1	0.0
サービス業	0.0	0.0	▲ 26.7	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 6.3
卸売業	75.0	75.0	0.0	0.0	50.0	25.0

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	4～6 月期動向	7～9 月期見通し	4～6 月期動向	7～9 月期見通し	4～6 月期動向	7～9 月期見通し
全体	▲ 8.2	▲ 6.3	▲ 2.9	▲ 2.8	▲ 2.9	▲ 2.8
小売業	▲ 7.1	▲ 14.3	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0
製造業	▲ 12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
建設業	▲ 33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス業	0.0	▲ 7.1	0.0	0.0	0.0	0.0
卸売業	25.0	0.0	100.0	50.0	100.0	0.0

過去からの動向

